

研究課題名	Rapid Response System(RRS) データレジストリーに関する多施設合同研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 救命救急科 氏名 鈴木 秀鷹
研究期間	(西暦) 2015年1月 ~2023年7月
研究の意義・目的	入院患者の病態憎悪や急変の前兆を迅速に覚知し、遅滞なく適切な介入を行うRRSが既に欧米では多くの病院で導入され、実際に実績を上げている。我が国でも導入する医療機関が少しずつ増えている。欧米ではRRSの導入効果に関する有効性に関する報告は、RRSの導入によって院内心肺停止発生数の減少、心肺停止症例の死亡率の減少、有害事象発生率の減少などが数多く報告されている。徐々にRRSが浸透しつつある本邦のデータをきちんと収集し、日本独自のエビデンスを確立していくことが非常に重要となる。日本独自のエビデンスを示すことが出来れば、日本においてRRSの普及を更に加速することが可能となる。
研究の方法 (対象期間含む)	方法：多施設観察研究、対象患者：当院でRRS起動なされた全症例、対象・研究期間：2015年1月から2023年7月まで、調査項目・解析手法：期間内にRRSが出動した症例で、診療録から年齢や性別、Vital signの変動、RRS介入事項、転帰などを抽出する。加えて、病院データとして、病床数や医師数などの情報も取得する。 一次アウトカムは「院内心肺停止数または割合」であり、二次アウトカムは「予期せぬICU入室数または割合」とする。分析方法については、施設別の調査項目と状況別の観察項目を記述して、そのうち関連性があると思われる項目について統計分析を行い、アウトカムと施設別の調査項目や状況の観察項目の関連性を探索する
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	ログインとファイル閲覧時にパスワードのかかる院内PC（以下、特定のPCと記載する）とする。結果公表に際しては、研究の性質上、データのみを記述するため、氏名などの個人情報明らかになることはない。また、個人を特定できる情報（氏名、住所、生年月日）を除外した形でデータを抽出し（匿名化する）、オンラインレジストリーへ入力を行う。各参加施設では患者の個人情報とは無関係な番号を付した患者リストを作成し、院内では連結可能とする。このデコード表は特定のPCに保存され、これは、研究対象から外れる旨の申し出があった場合にデータを削除するためにある。患者リストは代表研究施設、統計解析を行う施設には渡さない。 ②診療録、バイタルサインや採血データなど③当院救命救急科 鈴木 秀鷹、本多施設研究の中央施設である聖マリアンナ医科大学 救急医学 藤谷 茂樹④当院救命救急科 鈴木 秀鷹、本多施設研究の中央施設である聖マリアンナ医科大学 救急医学 藤谷 茂樹
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急科 氏名 鈴木 秀鷹 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525